

嬉しい体づくり～」をテーマにご講演いただきました。「人生100年ではなく、110年時代を目指して、効果的



会場風景

な筋力トレーニングを行いましょう」という力強いメッセージと共に実際に聴講者の皆さんと一緒に会場でトレーニングを行いました。会場の皆さんはうっすらと汗をかき、その効果を実感されたことでしょう。

特別講演1は横浜市立大学医学部看護学科副医学部長兼看護学科長教授の叶谷由佳先生に「コロナ禍による臨地実習への影響と今後の看護教育の方向性」についてご講演いただきました。新型コロナウイルスの流行により病院実習に行けなくなったことは、看護教育に大きな影響を及ぼし、実習を経験していない学生が現場に入っていく現状に対し、教育機関が進めているDX化とそのために必要なシステム、人材について詳述していただきました。優れた人材が育成されることを願います。

特別講演2では「ウィズコロナにおける職員のストレスケアについて」と題し、筑波大学働く人への心理支援開発研究センター名誉教授の松井 豊先生にご講演いただきました。コロナ禍では多くの医療従事者が大きなストレスを抱えました。長引くストレスが及ぼす影響についてご説明いただくと共に、現在は遅発性ストレスに注意が必要な時期で、「振り返りの時間を持ち、辛かったことを仲間と共有することは効果的」とおっしゃり、また「元気の出ない人を取りこぼさないこと」と訴えました。

特別講演3は、本学会副理事長でもある衣笠病院グループ相談役 武藤正樹先生に「2024年惑星直列大改定について」と題し、来年春に控えている診療・介護・障害福祉のトリプル改定、医師の働き方改革を中心に医療DXの推進、深刻化する医薬品不足など近い将来日本が迎える医療の現状を軽妙にお話しいただきました。生産人口が少なくなる将来に向けてDXの推進は避けては通れない課題です。プログラムでもDXに関係するシンポジウムをいくつか取り入れましたが、喫緊の問題として捉える必要を感じました。

特別講演4は厚生労働省大臣官房審議官の大坪寛子先生に「少子、超高齢、人口減社会における医療行政の方向性」をテーマにご講演いただきました。来年春に迫った医師の働き方改革の話を中心に厚生労働省が進

めている施策や今後の方向性について説明し、医師の働き方改革について、現場からさまざまな意見があることを承知の上で、労務環境改善に向けて理解と協力を求められました。

教育講演1では、「AGEsを標的とした包括的な抗加齢医療」について、昭和大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門主任教授の山岸昌一先生にご講演いただきました。AGEsの蓄積は寿命を縮めるだけでなく、さまざまな老年病を引き起こすため、AGEsを抑える食事方法や運動など生活習慣を整えることで予防につながることをご教授いただきました。具体的な調理方法もお示しいただき、すぐにでも実行できる有意義な講演でした。

教育講演2は東邦大学医学部社会医学講座教授の長谷川 友紀先生による「学会発表の方法と学術論文の書き方」のご講演でした。定期的実施される本講演では、論文のルールや抄録作成にあたり注意すること、パワーポイントの作り方など基本的な内容についてご説明いただきました。毎年、多くの皆様によりご発表いただく学術総会ですが、本講演の内容は次年度以降、発表を検討している人にとっても大変参考になったと思います。

教育講演3は、東邦大学医療センター大森病院院長の瓜田純久先生に、「北津軽の診療所院長から東京の大学病院長へー人生の逆Uターンを経験してー」と題してご講演をいただきました。瓜田先生は大学病院からご出身である青森県北津軽へお戻りになり、その後再び、大学病院に勤務して院長になられた異色の経歴をお持ちです。地方の診療所でも研究に勤しんだことや、「患者の笑顔が何よりも優先されることは青森の診療所でも大都会東京の大学病院でも同じ」と朗らかに語られました。

教育セミナー1は、クリティカルパス「地域連携クリティカルパスの進む道～これまでを振り返り今後の方向性を考える～」というテーマで、国立病院機構九州がんセンター院長の藤也寸志先生と朝日野総合病院院長の野村一俊先生にご登壇いただき、がん地域連携クリティカルパス、大腿骨近位部骨折地域連携クリティカルパスの経験を通して、地域の多職種連携が発展する可能性や入



会場風景